

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル3（入山規制）が継続＞

新燃岳では、本日（14日）14時44分に噴火が発生し、多量の噴煙が最高で火口縁上4,500mまで上がり、南東方向に流れました。弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup>及び火砕流<sup>2)</sup>は観測されませんでした。新燃岳で噴火が発生したのは、4月6日以来です。

### 【防災上の警戒事項等】

弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から概ね3kmまで、火砕流が概ね2kmまで達する可能性があります。そのため、火口から概ね3kmの範囲では警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石<sup>1)</sup>（火山れき<sup>3)</sup>）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

2011年と同様に爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

地元自治体等が行う立入規制等にも留意してください。また、地元自治体等が発表する火山ガスの情報にも留意してください。

なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

## ○ 活動概況

### ・噴煙など表面現象の状況（図1）

新燃岳では、本日（14日）14時44分に噴火が発生し、多量の噴煙が最高で火口縁上4,500mまで上がり、南東方向に流れました。弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流は観測されませんでした。噴火は16時10分まで継続しました。新燃岳で噴火が発生したのは、4月6日以来です。

### ・地震や微動の発生状況（図2、図3）

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、多い状態で経過しており、噴火の発生以降、増加しています。また、浅い所を震源とする低周波地震も発生しています。

噴火に伴う火山性微動が発生しました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

・地殻変動の状況（図 3）

高千穂河原観測点の傾斜計<sup>4)</sup>では、本日の噴火に伴い新燃岳方向が沈降する変動が観測されました。

- 1) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 2) 火砕流とは、火山灰や岩塊、火山ガスや空気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十 km から時速百 km 以上、温度は数百℃にも達することがあります。
- 3) 霧島山では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 4) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器です。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1  $\mu$  radian（マイクロラジアン）は 1 km 先が 1 mm 上下するような変化です。



図 1 霧島山（新燃岳） 5 月 14 日 14 時 44 分に発生した噴火の状況

（上：猪子石監視カメラによる噴煙の状況）

（下：韓国岳監視カメラによる噴煙の状況）

- ・多量の噴煙が最高で火口縁上 4,500m まで上がり、南東方向に流れました。
- ・弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流は観測されませんでした。

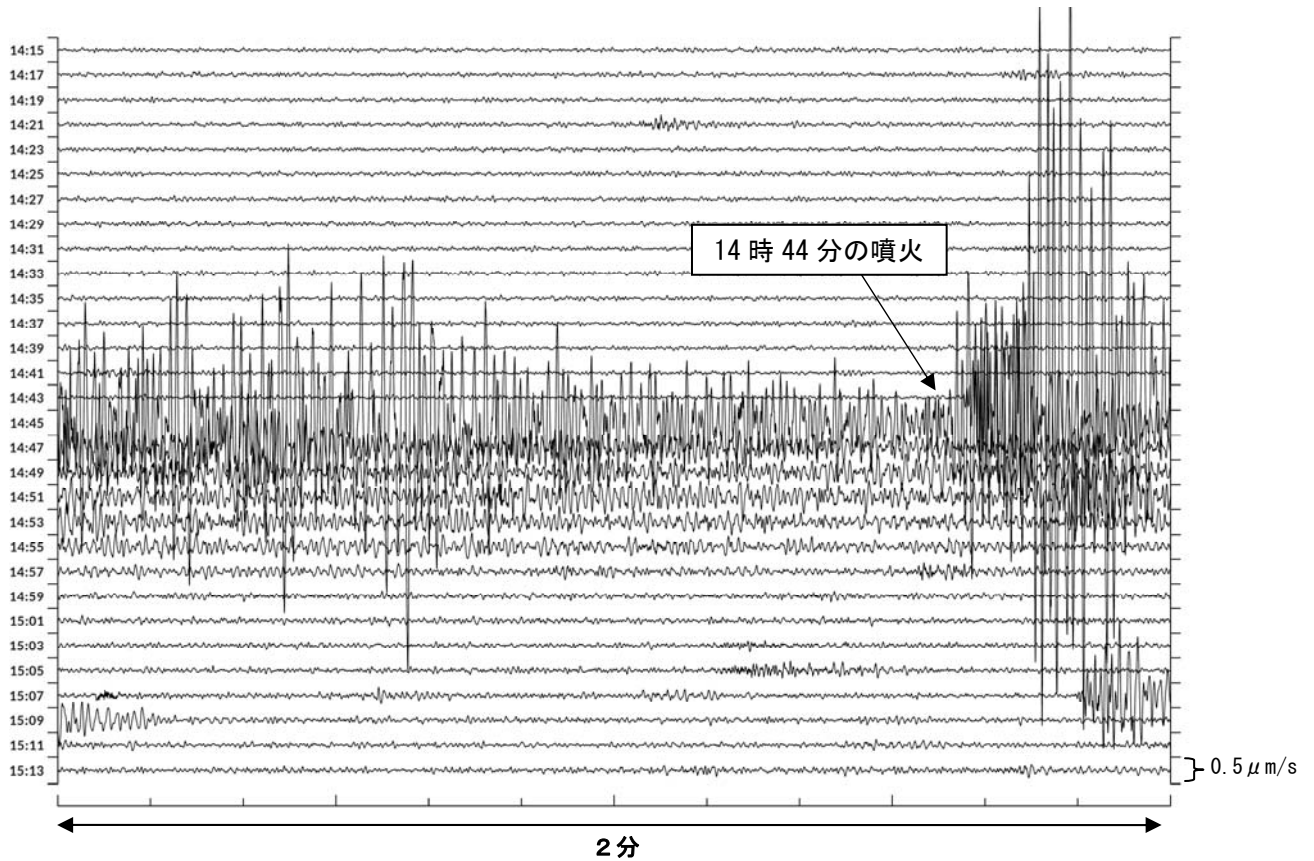


図2 霧島山（新燃岳） 高千穂河原観測点における14日14時15分～15時15分の地震波形（上下成分）  
本日（14日）14時44分に噴火が発生しました。

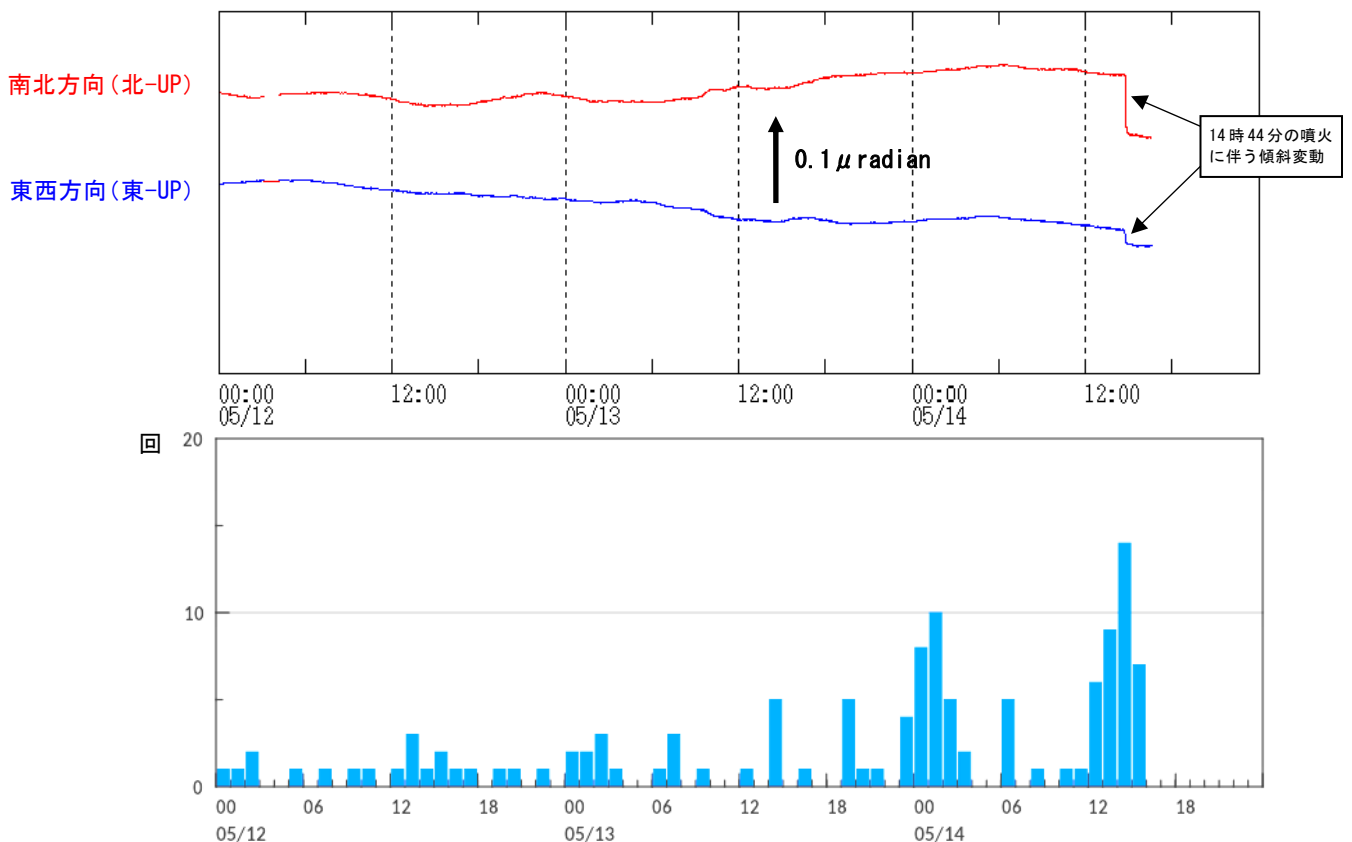


図3 霧島山（新燃岳） 高千穂河原傾斜計の傾斜変動及び新燃岳付近の火山性地震（時間別回数）  
(2018年5月12日～14日16時)

- ・高千穂河原観測点の傾斜計では、噴火に伴い新燃岳方向が沈降する変動が観測されました。
- ・新燃岳付近を震源とする火山性地震は、多い状態が続いています。



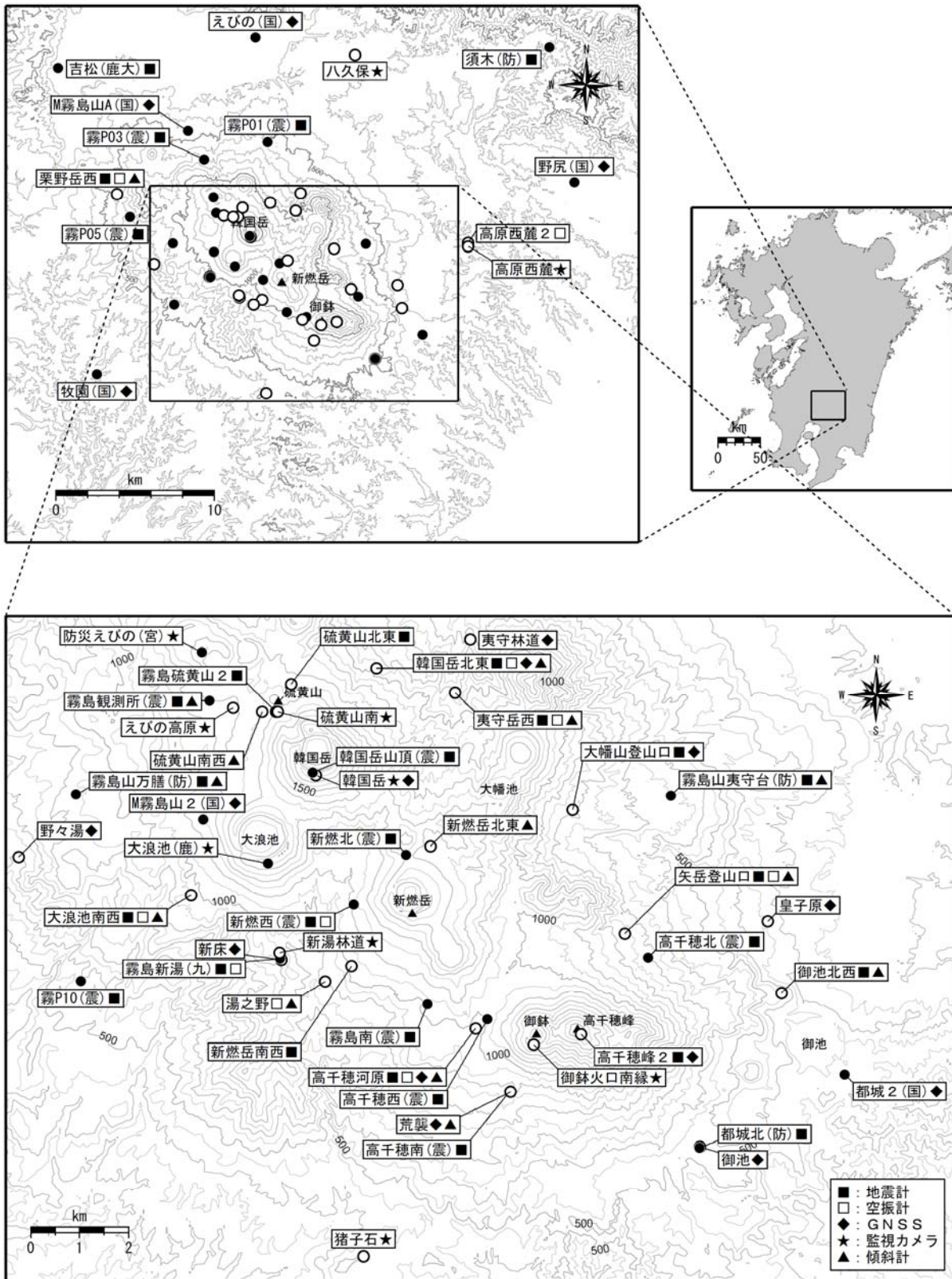


図4 霧島山 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所  
 (九)：九州大学、(鹿大)：鹿児島大学、(宮)：宮崎県、(鹿)：鹿児島県